

□には、リンクがあります。 □は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホームうずき

日 付 平成17年2月7日

評価機関名 社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会

評価調査員 特別養護老人ホームでの認知症高齢者介護歴 13年
病院での相談援助業務歴 30年、家族介護歴 13年

自主評価結果を見る（事業所の自主評価結果にリンクします）

評価項目の内容を見る（岡山県の定めた評価項目へリンクします）

事業者のコメントを見る
（評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります！）

外部評価の結果

観評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

近くに、病院、特別養護老人ホーム、老人保健施設、警察署などがあり、地域のなかで見守りをつけている様子がうかがえます。また、新しい住宅の多い地域の中で、ホームもお洒落なたたずまいを感じさせる建築様式です。玄関前には、くつろげる白いイスが、カフェテラスのように並んでいます。ホーム内では、入居者がごく自然に動き、落ち着いて生活している様子が見られます。

食材を併設の特養から提供されているので、献立に自由度が無いとの自己評価でしたが、調理をホーム内で行っており、ホーム独自に副食の追加もあり臨機応変の自由さがあります。職員に対する研修、教育も、よく出来ており、入居者がストレスなく日常生活を送ることができるように十分配慮されています。

なによりも、入居者と、職員の朗らかな話し声や、笑顔がよく見られます。入居者は、木をたっぷり使った温かみのある自室でも、ゆったりと過ごし、リビングでもまた、他の入居者と楽しそうに過ごしています。

特に改善の余地があると思われる点

・玄関がリビングに隣接しており、冬季や夏季には空調が効きにくくなっていますので、何らかの工夫が必要ではないでしょうか。

・浴槽に高さがあることと、またぎに幅があることは、高齢者の出入りには使いにくそうに感じました。

・個別記録の中にも、医療面の記録が綴じられていれば、入居者の状況が全体的に把握しやすいのではないのでしょうか。

運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	・笑い声がいつも聞こえる、なごやかなグループホーム作りを心がけている。 ・入居者の自己決定を大切にし、多くの決まりごとを持たない。 ・お天気（季節・自然）を大切に、桜が身頃な日には、“これから花見に行きましょう”、“木陰が気持ちいいから今日は外でお昼ご飯、おやつにしましょう”など当日決定する。 ・少人数ならではの、時間の過ごし方を心掛ける。 ・生活の中でのリハビリを大切に、静かなまなざし、あたたかい声かけをする。 以上の様子が感じられました。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境づくり	○	
4	建物の外周りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	入居者の性格や状況に応じた対応と、職員が大きな声で話さない、慌てて走ったりしないようにと気をつけています。 自己決定を促す声かけが出来るように、職員を教育しています。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録		○
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人のできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援		○
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	・家族からの聞き取りや、入居者との関わりの中から、得意分野を探して自信を持つことができるように支援しています。 ・いろいろな取り組みを試みていると、思いがけない発見があり、「素晴らしいね」、「凄いいね」と励ましています。 ・入室時には、必ずノックをし声かけをしてから入室するように職員を教育しています。 ・入居者同士がトラブルになりかけると、介入してトラブルを未然に防いでいます。 ・ケア会議で、週間目標を作っています。		

運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進		○
35	ホーム機能の地域への還元		○
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	・ケアを通じての「気づき」を大切に、職員間で共有するように心掛けています。 ・言葉遣いの乱れや、自己決定を促す言葉使いに注意しています。 ・音や臭いに注意し、五感を働かせて入居者の世界に入り込む努力をしています。 ・入居者同士が喧嘩をした時でも、職員がうまく介入し、ホームがコミュニティとして機能するように努力しています。		